

真下 紀子

困難のりこえ、ともに生きる

m.noriko.office@gmail.com

はつらつ道政レポート NO.389 2024. 11. 24発行

真下紀子事務所 旭川市3条16丁目左7号 TEL 0166-20-0808 FAX 0166-20-1616



日本共産党の真下紀子議員は、黄線区の赤字を地方が負担する道理がないと質問しました。

(11・7地方路線問題特別委員会)

JR北海道は黄線区に高いチャレンジ目標を求め、実行計画を示しました。7日の地方路線問題特別委員会で目標達成しても99億8,000万円の赤字を誰が負担するのか、利用拡大と併せて質問しました。

赤字は国とJRの責任 地方に置き換え許せない

1987年の国鉄分割民営化の際、北海道は赤字が前提でした。そのため経営安定基金の利息を充当して鉄道事業を継続すると決めたのは国です。民営化されたJR北海道は、国の低金利政策の影響で運用益が不足。安全対策を怠り、連続事故とデータ改ざんなどを起こし国から3度の監督命令を受けました。

現状、道内の鉄道は黄線区だけでなくすべて赤字。国策で建設した北海道新幹線は毎年約100億円もの赤字に加え、札幌開業は無期延期状態です。しかし、国からの補助金などの支援を受け、JRの不動産事業等によって、昨年度は黒字です。ところがJRは黄線区の利用拡大にとりくむ沿線自治体などに地方負担を求めるかのような発言をしたのです。

7日の地方路線問題特別委員会で真下議員は「どうして黄線区沿線自治体が負担するという話になるのか。国の支援分を地方に置き換えるということなのか」と道に質問。道はJRが収益を上げることが必要だと、まともに答えません。「もちろん利用拡大は重要ですが、



これまでの経過からも鉄道存続と新幹線の赤字解消は、JRと国が持つべき」と主張しました。

鉄道利用ニーズを反映する仕組みを

「旭川市内のバスが減便になり、JRを利用したい。でも西神楽駅は、列車とホームとの段差が大きくてひとりで乗降できない」「階段は仕方ないとしても手すりがあまりに汚くて触れないため乗れないんです」と富良野線の利用希望者から相談が寄せられました。

「利用者ニーズに対応していないためにJR自らが利用のチャンスを逃しているのではないかと質問。

実行計画ではひとり一回利用する目標を示しましたが、1週間に何度も利用する人たちの声に応え、収益を増やすほうが効率的ではないかと思えます。道はこうした現状をJRに伝えると答えました。過日駅舎が清掃され喜ばれています。

道新の読者の声には「特急列車の自由席を増やしてほしい」との要望が掲載されました。議会質問で何度もとりあげ、全く同感です。JRは利用者のニーズを聞き、反映させる仕組みをつくるべきと求めました。



訪問時の記念撮影。まだノーベル文学賞受賞の速報前です(10/10)

韓国作家「ハン・ガン」さんがノーベル文学賞を受賞した。韓国人で初受賞」と速報が入り、拍手で喜びあいました。絶妙なタイミングでした！

そこに、ニュース速報が！

真下議員は、旭川市と水原市との交流、韓国の暮らしづくり、「笹の墓標強制労働博物館」の完成、食文化、道内の押し等々話題を提供し、交流を深めました。

真下議員は道議会「日韓友好議員連盟」の副会長を務めています。10月10日駐札幌大韓民国の延賢植総領事に招かれて総領事館を訪問。総領事はじめ、総領事館の方々とは交流しました。

ハン・ガン氏
韓国初ノーベル文学賞を受賞
道議会日韓議連、総領事館で祝意

子ども基本条例 貧困・虐待・いじめ・不登校に どう対応？



子どもをめぐる情勢は極めて厳しく貧困状態では何が幸福かも考えられない子どももいます。こども基本法は「養育は家庭が基本」としたため、子どもや保護者を追い詰めてしまいいっそう孤立化しかねません。専門人材と子ども予算の抜本的増額など道として子ども施策策定と実施を求めました。(9/27予算特別委員会)

102歳 生活図画事件・最後の証人

◆ 表現の自由侵害 生活図画事件ご存知ですか？

表現の自由を侵害する違法・違憲と断罪された道警察によるヤジ排除問題は、道議会でとりあげました。戦前・戦中には、つづり方(作文)や絵を描いただけで逮捕され、表現の自由を侵害された「つづり方事件」「生活図画事件」が旭川市で起きていました。

旭川市在住の菱谷良一さんは、生活図画事件の生き証人です。共謀罪や安法制の成立が、自身の逮捕の根拠とされた治安維持法に似ていると、危機感をもったそうです。絵を描いただけで投獄された事件の証言を続ける姿を映画化した「102歳のことばー生活図画事件 最後の生き証人ー」、旭川弁護士会主催で旭川上映が実現しました。

太平洋戦争直前に起きた生活図画事件。身の回りの生活を見つめ、ありのままの姿を描く生活図画を描いたというだけで、美術部の学生ら20人以上が突然逮捕された事件です。容疑は治安維持法違反。彼らが書いた図画がなぜ取り締まられたのか、102歳を迎えた菱谷良一さんはこの事件の最後の生き証人です。獄中で励まし合った亡き友、松本五郎さんの遺志を継いで102歳の今も「自由と平和を壊させてはならない」と声を上げ続けています。



Q1. 憲法と子どもの権利条約尊重し幸福実現めざすのか
A. 憲法と、子どもの権利四原則「差別されない」「大事に育てられる」「意見を言え、活動に参加できる」「子どもに最良が優先して考えられる」を踏まえる

Q2. 深刻な権利侵害にどう対応するのか

A. 貧困をめぐる状況は厳しくひとり親の5割が最低の所得階層、所得が低いほど孤立。総合的対策の推進必要

Q3. 基本法の「養育は家庭が基本」は大問題

A. おかれた環境にかかわらない成長・子育てを検討

Q4. 子どもの権利の認知度は？

A. 調べていない。周知方法を検討する

Q5. いじめ、不登校、理不尽な校則にどう対応？

A. 子ども真ん中実行計画2024、教育コンテンツ作成

Q6. 性虐待対応と生命・生存、成長に関する権利は？

A. 命の安全教育を活用、プライベートゾーンの啓発

Q7. それでは不十分。包括的性教育は必須！

A. 基本的人権の保障、成長・発達・自立を図る

指摘：非常に遅れている。

Q8. 子どもコミッショナーやオンブズパーソン設置を

A. 子どもの権利の周知と擁護を骨子案に盛り込み、北海道子ども政策審議会、子どもから意見聴取し検討する

壊れた白鳥のレリーフ 痛々しいまま放置しないで

旭川市下水処理場近くを走る「道道旭川多度志線」の側の転落防止柵に白鳥のレリーフが設置されています。30年余を経過し、「一部破損して白鳥が変わり果てた痛々しい姿になっている」と相談がありました。

さっそく、管理者の上川総合振興局建設管理部に問い合わせるました。30年以上経つ現場の様子を確認の上壊れたレリーフは撤去されることになりました。

構造物とはいえ命あるものを模したものが、壊れたままなのは胸が痛みます。

元気な白鳥は、残ります。



道議会・道政へのご意見・ご要望をお寄せください。